

臨 床

赤ミミズ酵素サプリメント使用臨床医のコメント集

※書籍「よごれた血管がキレイになる赤ミミズ酵素―

10人の医師が証言する健康回復のすごい力」より抜粋

◎閉塞性動脈硬化症

(104 ページ～110 ページ)

赤ミミズで「下肢切断」を免れた患者さん

小川節郎 医師

「当時 63 歳の男性です。インスリンを自分で注射していました。もともとひどい糖尿病があって、そこから慢性的に下肢動脈の閉塞症を起こしてきたんですが、これがなかなか治らへんです。この病気の一般的な治療方法としては、まず薬でコレステロールや中性脂肪をコントロールして、抗血栓薬を飲みます。悪化したら鼠蹊部から動脈にカテーテルを入れて拡げる治療とか、動脈のバイパスをつくる手術もある。でも、それで良くなっても 3 か月くらいしかもたへん。そんなことで少しずつ悪化して、最後は切断に向かって行ってしまうことが多いんですね。

この男性も 2 回ほどカテーテルで動脈を拡げる治療をやったんですけど、やっぱりダメで、右足の親指の先が腐ってきました。壊死ですね。この段階で、担当医から足の切断を覚悟するようにと言われたんです (■写真・2014 年 3 月)。

僕はたまたまこの方の奥さんをずっと診ていたので、その方から『主人が脚切断の宣告を受けましてん』と深刻な顔で相談を受けたわけです。それで僕は、赤ミミズ酵素サプリメントを勧めました。奥さんもその気になって、旦那さんに毎日 6 カプセル (赤ミミズ 150mg) ずつ飲ませた。

そうしたら壊疽を起こしていた患部がどんどんよくなって、1 年後にはこれですわ (■写真・2015 年 3 月)。切断と診断した主治医もたいへん驚いていたそうです」

男性は糖尿病がかなり悪化していて、糖尿病性腎症で透析も受けるようになっていたそうです。それでも赤ミミズ酵素サプリメントを飲み続けて、足のほうが再び悪くなることはありませんでした。

「透析の患者さんは水分やミネラルの摂取にいろいろな制限がありますが、ドクターによれば赤ミミズを飲んでいても透析は大丈夫なようでした。この男性は最後は 2018 年に腎不全で亡くなりましたが、足はきれいだったって奥さん、おっしゃっていましたねえ。亡くなるまでは短かったけど、切断なくて済んだということは、家族も本人もハッピーだったと思いますよ」

閉塞性動脈硬化症には赤ミミズ酵素を

小川先生はそれ以来、閉塞性動脈硬化症を起こしている患者さんには、必ず赤ミミズを飲んでもらうようにしているそうです。

「治療をしても再発する人が多い病気で厄介なのですが、これを飲んでいると悪くならないんです。この病気には『下肢切断』という厳しい結末がありますから、そこが最大のポイントなんです。足先だけの壊死でも、膝下とか、ひどいときは股関節から切断ということになってしまうからね。両側の手足を切断した患者さんも知っています。中高年でそうなったら、もうその人の人生終わりでしょう。診断された患者さんは、いずれそうなるリスクもあると説明を受ければ、そのことをものすごく気にしますよね。いずれは、という怖さがありますから。でも、赤ミミズを飲んでいると、それがいいんです。結末にいたらない。完治はしないけれども、低空飛行だけど、墜落しないで済む。僕が診たなかでは、赤ミミズを飲んだ人はみんな切断を免れています」

というわけで、ほかの患者さんの例も教えていただきました。

「この方は、閉塞性動脈硬化症でいまも通院中ですが、赤ミミズだけ飲んでおられます。血液の流れ具合を評価する ABI という検査があって、この方の数値は、悪いんやけど 0.8 くらい（正常値は 1 以上）でずっとキープですもん。ひどい人は 0.6 とかなるんですけど、そうなったらもう血はほとんど流れてないんですわ。それくらいの状態になっても、これ（赤ミミズ酵素サプリメント）飲んどると 0.8 くらいまで上がってきて、そこでキープできるからね。効果ははっきりしていると思います」

赤ミミズ酵素サプリメントを使用している患者さんたち

もう少し、閉塞性動脈硬化症の患者さんの例を紹介していただきます。

「この方は 72 歳くらいですが、ウチの患者さんちがうんですよ。やっぱり奥さんがウチの患者さんというパターンね。で、3 年くらい前に旦那さんがほかの病院に入院して、下肢動脈閉塞症（閉塞性動脈硬化症）と診断されて、このままいけば切断になるかもしれない、と言われたんです。それで、やっぱり奥さんが僕に『どうにかなりませんか』と相談したんです」

小川先生は、同じ病気で下肢切断を免れた患者さんの話をしました。そして「同じように毎日 6 個ずつ飲んでみるといいよ」と伝えました。

「それ以来、旦那さんはずっと赤ミミズを飲んでいます。僕はその旦那の顔は知っているけど、病気の進行具合はぜんぜん診てない。でも切断してないし、クルマの運転もしているから悪くなってないんだろうね。なんやかんや言いながらずっと飲んでるそうやから、赤ミミズのおかげと思っているんやろうと思いますよ」

また、50 代後半の男性で、高血圧症と高脂血症で小川医院に通院していた会社の経営者の男性は、検診で頸動脈エコーをみたところ、かなり狭くなっているところが発見されました。頸動脈狭窄症です。

「こんなん、放っておいたらプラークの塊がはがれて脳へ行って、細い脳動脈で詰まってしまう。脳梗塞になるおそれがあります。頸動脈の狭窄が 70%くらいになると手術をしなければいけないのですが、もうそれに近かってん。というわけで、赤ミミズを勧めたら飲み始めたんですね。これがよかった。もう 1 年くらいになりますけど、いまもまったく悪くなってないからね。ほかにとくに治療はしてないので、次回にエコー検査をして狭窄が前回より改善していたら、赤ミミズが効いた、ということになるでしょうね」

さらにもう 1 名は、慢性の動脈硬化症があって、心臓もちょっと心配な点があるという患者さんです。心房細動があるということでした。

「それも心配やねんけど、それよりさっき言った ABI の数値が 0.6 くらいしかなかったん。全身の動脈硬化がそうとう進んでるちゅうことやね。それで赤ミミズを飲み始めたんやけど、やはり改善しました。正常範囲までは戻らないけれども、低いところできっと維持している。本人なんでもないの『油断したらあかんよ』と注意するのが大変なんです(笑)」

というわけで小川先生は、頸動脈エコーで血管が狭くなっている患者さんと、閉塞性動脈硬化症の患者さんには、赤ミミズ酵素サプリメントを積極的に勧めています。取材させていただいた時点では、5 名の患者さんが飲用されているとのことでした。

(152 ページ～153 ページ)

下肢の閉塞性動脈硬化症が改善

松嶋大 医師

閉塞性動脈硬化症が急激に改善した患者さんがいました。

「2018 年のことですが、これはびっくりしました。患者さんは認知症のある 85 歳、女性です。ふくらはぎの裏側の動脈が詰まってほとんど流れていなかった。年齢も年齢なので手術もできず、プレタール（抗血栓薬）を飲んでもらいましたが、まったく良くならなかったんです。そこで家族と相談して、なんとか赤ミミズを飲んでもらいました。効くとわかっていたのですが、コストの問題があったので、僕は知恵を絞って、バラして 1 カプセルいくらかで購入していただいたんです。それで 1 日 4 粒くらいの飲用を始めたら、驚いたことに 1 週間で歩行時の痛みがなくなったんです。効くことはわかっていたけど、ここまで早く良くなるとは思いませんでした。でも、このおばあちゃんはちょっと蕁麻疹が出てしまったんで、いまはやめていますが、痛みの再発はないようです」

(199 ページ～200 ページ)

79 歳女性、下肢動脈狭窄症の改善

堀智勝 医師

堀先生のテニス仲間です。79 歳の女性ですが、テニスの腕はかなりのもので、全国大会に出たこともあるほどのレベルだそうです。ところが、最近では下肢動脈狭窄症（下

肢の循環不良) が起こってきて、試合が進むほどに脚がしびれ、痛くなって動けなくなってしまうのです。

「下肢の動脈狭窄なら、赤ミミズの得意分野じゃないですか。私はその方に、94歳の恩師の胸痛が治ったお話をしたんです。すると、試しに飲んでみたい、ということでプレゼントしました。その1瓶を飲み終わってからもご自身で購入して継続して飲まれたそうですが、そのうち効果が出てきました。しびれがなくなっちゃった、というんです。そういうわけで、テニスも復活していまも大活躍していますよ。

この方は、病院で検査して治療のステントを入れていました。薬物療法もやっていたはずですが、しびれと痛みはなかなか治らなかったんですね。赤ミミズ酵素を飲んでから良くなって、その後病院で血管の検査を行ったところ、きれいに通っている、といわれたそうです。医師から何かしたか？ と聞かれたけど、ミミズを飲んでる、とは言えなかったそうです」